

共に東方の雄として互いに横綱格を競ったものである。往時、これらの逞しい漁業青年たちが、出場した東与賀町内での角力大会の盛況や、佐賀郡や県の角力大会更に佐賀市における佐嘉神社や護国神社祭典で活躍し優勝した勇姿は、なお町民の眼にも残っていて実に感慨も無量である。

## 八 中 割

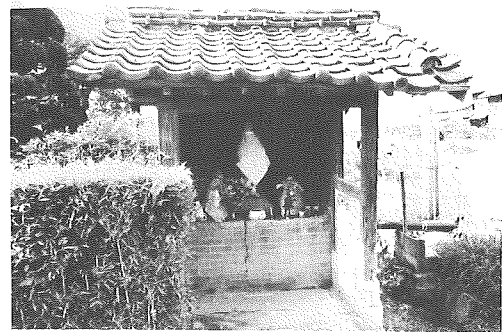
中割は南北に流れる堀割りを境界として作出の東部に隣接しているが、行政上中割は大字下古賀に、作出は大字田中に分けられている。地名辞典によると「中割」というのは干拓や耕地整理の際の区切りのことで、「中切り」とか「中割り」という言葉からの名称である。こうして二つに区割りされた村落であるが、中割と作出は昔から密接な関連を持ち協同大和の精神で年々と繁栄している。

大正初年頃の本村の郷土調査では、大字下古賀の中にこの「中割」の字名が記され「作出」の字名が見当たらない。したがって「作出」の小字はその後にできたものと想像される。また中割の現在の戸数二十五戸でその半数以上が農業を営んでいるが、昔より庄屋をつとめた山田家をはじめ、宮崎・副島・吉村・園田等の旧家や地主層が多い。当時所有した水田の面積は今町や梅田付近にまで及び、それだけに敬神崇祖の念も厚かったとい

う。その一つに二泊三日の英彦山詣りがあるが、これは毎年四月二十五日を中心に農家の男子四人が組を作り祈願

するのである。服装も素朴な着物姿に草鞋がけで、てくてくと歩き続ける真剣な苦行であった。満願をすまして村へ帰り着くと、家族や村落民が産土神社に待ちうけており総出で歓迎をする。参詣者は英彦山からお土産に買って来た「へそぐい菓子」を村の子供たちに振る舞ったり、参詣状況の報告をする。夜ともなればその慰労を兼ねて祈願成就祝賀の権現講が催されるのである。この英彦山詣での奇習として、参詣者がはいた草鞋を帰毛した際に抜がしてやり足を洗ってやると妊婦は安産するという奇習がある。往時の母親連中でそれを実行した人も多いとのことである。

も一つはこの村の東端にある三界万霊の地藏堂を忘れてはならない。安永四年十月吉日の建立で以前は町道の東部へ突き当たりの堀岸にあったが、現在地に移転改築になったのである。お地藏さんの眉の間に大きい「いぼ」がある。「いぼ地藏さん」の愛称がある。このお地藏さんは子供授けの神として尊敬され、お詣りして子宝を恵まれた実例も多いと聞く。それでこの近隣だけでなく他の町村よりも遠くは小城の三日月からも参詣者があるとのこと。現在地は春秋の彼岸にこの地区婦人会でお祭りをする外に、毎年十月十五日のお供日がある。この日に赤飯を炊いて魚と神酒を供えてお詣りすると、見事な男の子が授かるという「霊験あらたかに有り難い「いぼ地藏さん」である。



地 蔵 堂

この邑の人々も勤労意欲旺盛で、戦前の共同炊事や戦後の副業奨励に

も真剣に取り組んだ。特に唯一の副業であった刈織りに精出し、戦前の昭和十六年頃から織りはじめ戦後二十三年頃の復興期から三十八年頃まで最盛を極めた。当時の山田八郎村長や増田嘉一農協長の指導督励が功を奏して、村内で戸数の七割が機械を購入し総計五〇〇台にも達した。その頃指導的役割を果たした吉村竹次は、最盛だった昭和三十八年度は年間に三十万枚を織り佐賀県一の表彰を受けたが一枚の価額五〇円とみて楽に一五〇〇万円の副業収入を挙げた」と語るのである。

この村落の西部で作出の龍王神社に近く、しょう洒な建物の公民館が建っている。これは昭和三十九年の創立で室内に入ると、天井と壁の間には副業生産や農協に係る表彰額がずらりと掲げられて、ここに住む先輩の人々の勤勉と栄光を物語っている。その一つに昭和四十一年四月佐賀県農業協同組合連合会より、この中割の農協貯蓄額が一戸平均一〇〇万円を突破したことで感謝状と賞金を贈られている。いかにこの村が協力してがんばったか、そして家計も平均して豊かになったかが証明される。こうして昭和五十二年度には村の北部に面して、約一反歩の広々とした遊園地を完成した。これは圃場整備の余沢もあつてできたもので、子供等の遊び場と共に老人のゲートボール等、幅広い村人のいこいの公園として利用されている。

## 九 擲

この擲は東与賀町の南東部に位置した大村落で、その東側には八田江湖が滔々と流れて川副町と相對し、北側

は梅田に隣接している。梅田はこの擲とは因縁が深く、昭和二十五年の頃まで「擲北」の名称で呼んでいたが、同三十四年一月よりここから分離独立したものである。古老の話ではこの擲は昔全戸が漁業を営んだが、次第に農業もやるようになり今では半農半漁の家が大部分である。

擲は一名を大擲おおがらみとも言い、明治四年に田八〇町歩の新地開拓と共に、村内をはじめ他地区よりの移住民にて組織されたものである。

その旧藩主時代における耕地拡張事業として、左記の記録がある。

### 佐賀郡東與賀村大擲

- 一、所在地及地区名 佐賀郡東與賀村大字飯盛大擲
- 二、事業者 舊藩主 鍋島直大侯
- 三、開發面積 田八十町歩
- 四、事業ノ顛末
  - イ、事業施行年月 明治元年着手 同四年竣成
  - ロ、施行方法

埋築ニ要スル材料及經費(不明)ノ全部ヲ舊藩主鍋島直大侯ヨリ支出シ之レニ要セシ人夫等ハ元與賀下郷ノ住民ヲ以テ使用セリ

### ハ、經過及成績

竣成後元下郷ノ人民ニ小作セシメ埋築費ニ對スル利子七朱ヲ小作料トシテ徴收シ明治三十一、二年頃鍋島直大侯ハ